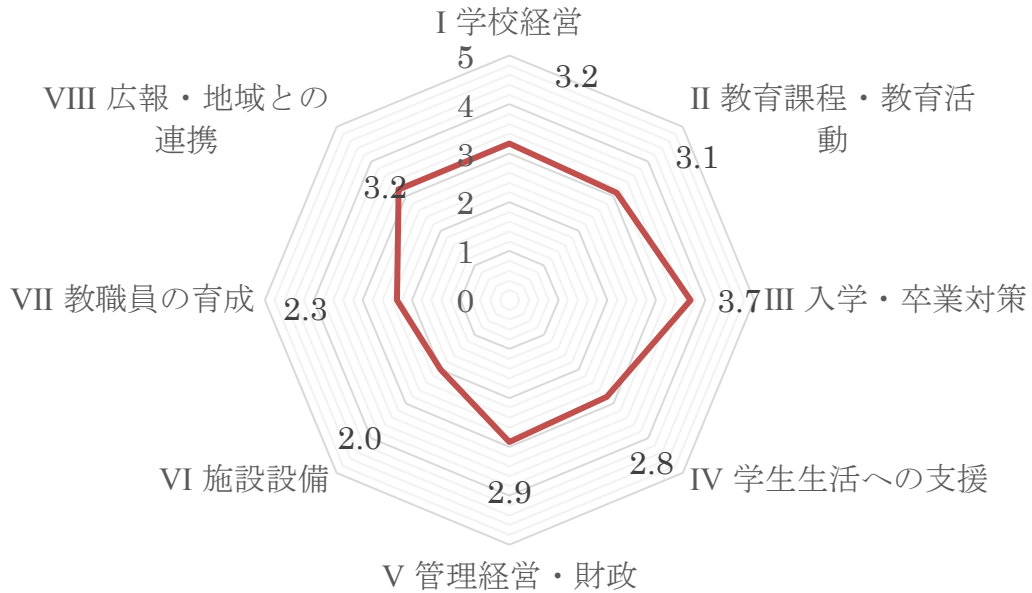


令和4年4月
准看護科

令和3年度 自己点検・自己評価



令和3年度 評価の概要と今後の課題

I. 学校経営

自己点検・自己評価を実施し次年度の目標へつなげるよう努力している。令和2年度より学校関係者評価を取り入れ、適正な学校運営・経営に努めている。

II. 教育課程・教育活動

カリキュラム改正に向けて、教育課程を見直し教育理念・教育目標と一貫性がある内容とした。学生に学ばせたい内容を抽出後、シラバス案を作成。今後、講師と相談・調整しながらすすめていく。臨地実習においては、約6割が学内・自宅学習となった。臨地実習が可能な際は、実習施設と連絡・調整を行いながら、実施した。学内実習においては、事例の選択や看護実践においてリアリティをもたせるなど可能な限り体制を整えた。

授業評価・実習評価はその都度実施し、各教員で振り返り次年度へつなげている。

III. 入学・卒業対策

コロナ禍の中、積極的な活動は出来なかった。募集活動としては、学校訪問（のべ14校）、ガイダンス（2回/年）への参加、オープンキャンパス（対面2回、オンライン2回、計4回/年）、個別学校見学（4名）への対応を実施した。学校訪問は、大牟田市内とその周辺に絞って実施し、その他の各学校には電話による入試の告知を行った。しかし結果は、令和4年度も定員割（充足率48.5%）である。

退学者数の推移

2017年度生	2018年度生	2019年度生	2020年度生	2021年度生
8名	11名	4名	4名	6名

2021年度生は2022年3月末現在の数

受験者数の推移

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
66名	49名	37名	37名	43名

受験者数の減少により入学者選抜が厳しい状況である。令和3年度より社会人入試を導入しており、今年は11名の受験者があった。令和5年度は社会人入学試験の回数を3回に増やし、入学生確保に向けて強化していく。

福岡県准看護師試験結果は100%合格であり、令和3年度の目標は達成することができた。就職率は79.1%と例年に比べ未定者も多いが、近郊への就職率は100%であり地域医療を支える人材育成としての役割は果たせていると考える。進学率は54.1%（昨年は64.9%）、進学者13名全員が本校看護科へ進学した。今後の課題として、卒業生の就業先での評価の把握や就業先との情報交換、調査等は実施していないため、就業先との連携を図りながら地域に定着し貢献していただけるように支援して行く必要がある。

令和3年度の教育・研究活動の実施については、以下の通りである。

教育・研究活動

カリキュラム準備セミナー(医学書院 オンライン)	全教員受講
日本看護学教育学会学術集会(オンライン)	1名参加
准看護師教育実施施設部会(日本看護学校協議会)	1名参加
看護卒後研修会(福岡県医師会 オンデマンド配信)	全教員受講
看護生涯教育研修会(福岡県医師会 オンデマンド配信)	全教員受講

IV. 学生生活への支援

生徒の事故発生時には、報告ルートを作成し対応している。生徒の安全対策として、総合保障制度、学生用 Will 保険に加入している。令和3年度の対応件数は5件であった。また、スクールカウンセラーを配置し(非常勤)、生徒の相談を受ける体制は整えているが、令和3年度の相談実績は1件であった。

V. 管理運営・財政

コロナの状況により、オンラインでの会議も適宜取入れ実施した。運営会議（紙面1回、対面1回、オンライン2回）教務会議（1回/月）、進級判定会議(3回)、入学試験委員会（5回）である。講師会は中止（書類発送）、実習指導者会、主任会議、評価委員会は実施できていない。学生生活への支援については、各種奨学金について周知し、対応している。

VI. 施設設備

施設設備や学生生活の支援については、問題があればすぐに対応するようにしている。

VII. 教職員の育成

福岡県専任教員養成講習会に1名参加し、修了した。今後は各自が自分のスキルアップのため自己研鑽に努めるとともに職場環境においても支援する環境、雰囲気作りが必要である。令和3年度は研究活動に取り組んだ教員はいなかった。今後も教員相互で支援し合う体制の強化及び雰囲気作りが必要である。

VIII. 広報・地域との連携

養成所の情報提供については、ホームページや進学サプリーへの参画、Line やInstagramなどのSNSを通し情報を発信している。進学サプリーを通しての募集要項、願書の発行部数は、145部（全発行部数の58.5%）出願率は3.4%(前年度は6%)であった。今後入学生確保へと結びつけられるように広報活動に努めていく。

ボランティア活動として今年度は献血に協力した。

令和4年度 准看護科 目標

1. 新カリキュラムの適正な運用
2. コロナ禍における学生支援の充実
3. 令和4年度福岡県准看護師試験全員合格

令和3年度目標評価

准看護師科

1. 新カリキュラムの構築と円滑な運営に向けた準備
2. ICTの活用とリモート教育の充実
3. 令和3年度福岡県准看護師試験全員合格

- 評価基準
- A: 計画通り達成できた
 - B: おおむね計画通り達成できた
 - C: 計画通りできなかったところもあり十分でない
 - D: 全く達成できなかった

目標	計画	実施状況（評価の判断理由）	評価
1. 新カリキュラムの構築と円滑な運営に向けた準備	1 旧カリキュラム評価 2 旧カリキュラムの見直し 3 新カリキュラムの構築 4 カリキュラム申請 5 カリキュラム運用への準備	福岡県への申請へ向けて、書類の提出は期限内に提出はでき、申請承認された。 実施状況としては、計画立案が遅れ、実施も予定通りに進めることができなかった。通常業務に追われ、適宜計画を見直し、計画の修正も不十分であり、締め切りぎりぎりの提出となった。話し合う時間の確保が難しく、教員全員の共通理解のもとでの計画・実施とはいかなかった。申請承認はされたものの、新たな教育内容についての評価や効果的な校内演習の方法、具体的な臨地実習の運用などはこれから準備していかなければならず、課題は山積している。	C
2. ICTの活用とリモート教育の充実	1 活用のための知識の習得 2 知識の共有	オンラインによる研修会に参加し、教員全員が参加受講し知識の習得ができた。しかし、知識を共有する機会をもつことができず個々の理解にとどまっており、情報共有できていない。 昨年度のカリキュラムの約33%をオンライン授業にて実施した。オンライン上でもグループワークやチャットを利用するなど個々に創意工夫をしながら実施した。学内実習において電子カルテ教材を基礎看護実習Ⅲで利用したが、綿密な事前準備が必要であり、活用には至っていない。現状としては、個々の教員の力量に任せている状況であり、リモート教育の充実のための情報共有や学習会を実施するなどの必要がある。	B
3. 令和3年度福岡県准看護師試験全員合格	1 学習支援 ・計画的な模擬試験の実施 ・成績管理表による自己管理 2 成績不良者への個別指導	4月より、成績不良者に対しチューター制をとり支援を開始した。模擬試験や学習状況をみながらメンバーの入れ替えや担当する教員の組み合わせを変更するなど配慮していった。 科目履修ができず、2名の留年者が出た。 卒業試験後はオンラインでの学習支援となったが、始業前と放課後に補習授業を実施。参加者平均4.8名。（参加率 20%）YouTubeでのオンデマンド配信は、新たな試みとして取り組むことができた。実施後のアンケートより、繰り返し視聴できる、視覚的に理解できたなどの意見があり効果的だったと思われる。配信数 20件、視聴回数 のべ252件 ・福岡県准看護師試験全員合格	A